

LINE 公式アカウント始動!

友達募集

LINE @240jojri

上記IDにて検索もしくは
右記QRより友達追加!




Instagram

大阪南医療センターの日常をご紹介します!
ぜひフォローしてください♪

osakaminami_iryō



TOPICS

ホームページをリニューアルしました

この度、大阪南医療センターのホームページをリニューアルしました。今回のリニューアルでは、ご利用いただく皆様により見やすく、分かりやすく情報をお伝えできるホームページとなるよう改善いたしました。今後も、これまで以上に内容の充実を図って参りますので、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。



ホームページはこちら

トップページ動画のメイキング写真



重要なお知らせ 新型コロナウイルス感染症への対策のお知らせとお願ひ

電話・FAX TEL 0721-53-5761 (代) FAX 0721-53-8904
 外来受付時間 平日 8:30~11:00
 外来休診日 土曜、日曜、祝日、12月29日~1月3日
 予約の変更 TEL 0721-53-6535 (専用番号) 平日9:00~17:00受付

患者様・一般の方向けMENU

- 外来受診の方へ
- アクセス・駐車場
- 入院・お見舞いの方へ

診療科 **NOW** 消化器科



左：笹川 哲 右：中西 文彦

がんにおける早期発見・早期治療の重要性を再認識しましょう



「消化器科の動画はこちら」

がん疾患センター部長 消化器科医長 **中西 文彦**
 なかにし 消化器科医長 消化器科医長 内視鏡室長 **笹川 哲**
 ふみひこ ささかわ あきら

広報誌「南窓」のご意見・ご感想をお聞かせください

広報誌「南窓」をお読みいただき、誠にありがとうございます。
 お客様一人ひとりの声をより良い広報誌作りに活かしてゆきたいと考え、ご意見・ご感想を募集しております。
 皆様からのご意見は、今後の改善を進める上で参考にさせていただきます。上記のURL または QRコードよりフォームにアクセスが可能です。
 ※ご意見・ご感想への返信はいたしておりません。ご了承ください。ご意見全てにはお応え出来ない場合がございます。予めご了承ください。

ご意見・ご感想はこちら ▶ <https://contact.osakaminamihosp.jp/>



大阪南医療センター 循環器疾患センター 24時間緊急対応 (ハートコール) 胸背部痛、呼吸困難、動悸等 循環器疾患が疑われる際には緊急対応連絡先へご連絡ください。直通 Tel. 0721-53-3200



今こそ共有しておきたい、**検診の大切さ**

当科では救急の患者さんとともに、がんの患者さんを多く受け入れています。がん治療においては早期発見が鍵を握ることは言うまでもありませんが、昨今、コロナ禍もあって人間ドッグなど検診を受ける方が減少しており、症状が出てから診察を受けられる患者さんが増加傾向にあることが懸念されています。ぜひこの機会に検診の重要性を再認識し、先生方には患者さん達へのお声かけを積極的にしていただきたいと思っています。そして先生方のご判断により、必要となれば速やかに当科へつなげてほしいと思います。





早期発見で根治を目指すために ～胃がん・大腸がん～

早期発見の一步はがん検診です。消化器系のがん(胃がん、大腸がん、膵臓がん、肝臓がん)のうち、日本人に多い「胃がん」と近年患者数が大幅に増えている「大腸がん」はがん検診が実施されています。胃がんなら、胃炎の症状があればピロリ菌検査によるピロリ菌除去でがんの発症を抑制することができますし、大腸がんであればまずは便潜血検査が有効です。治療においては、どちらのがんもともに内視鏡下での粘膜下層剥離術(ESD)が確立しており、大腸がんではポリープに対する粘膜切除術(EMR)の成績がよく、根治を目指すことが可能です。そのためにもやはり、早めの検診と診断が大前提なのです。

脂肪肝を改善してがんの発症を抑えよう ～肝臓がん～

予防可能ながんとしては、生活習慣が大きく影響する「脂肪肝」由来の「肝臓がん」があります。脂肪肝はアルコール性に加え非アルコール性(NASH)が増えていることが特徴。放置すると肝硬変や肝臓がんへ移行するリスクが上がりますが、食事療法、運動療法などにより健康な状態に戻すことも可能です。但し食欲不振や倦怠感などの自覚症状の出たときには進行しているケースも考えられますので、やはり血液検査などの検診が最重要であり、肝障害が疑われる場合、画像検査や精密検査を受けていただくのがよいでしょう。

また肝臓がんについてもカテーテル治療である肝動脈化学塞栓術やラジオ波焼灼術が確立されており、適応範囲も広くよい成績を収めています。また最近、肝動脈塞栓術やラジオ波が不応となったり適応外となった症例に対して分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤といった薬物治療も効果を発揮しています。

何よりも**大事**なのは**早期発見**できること、できれば「ならない」こと

がん治療はますます進化することでしょう。一方でこれからの課題は、高齢化にも対処し得る在宅医療の充実ではないでしょうか。がんにおいても、将来的には、在宅治療や在宅療養が可能ならば在宅で、入院が必要ならば入院、そして看取りはどうするのか、様々な選択肢が用意されていることが必要になってくるのではないかと思います。これは患者さんの状態や背景によるものばかりではなく、できる限り気持ちに寄り添う、という意味でも重要です。こうした体制を整えるのにまず不可欠なのは、開業医や在宅医の先生方と我々が、住み分けではなく連携をするという意識だと思えます。

しかしながら最初に戻りますが、目指すべきはがんに「ならない」ということ、早期発見できることです。開業医の先生方の患者さんへの一層の働きかけを期待しております。



左：藤原 啓恭 中央：高橋 博貴 右：谷川 由実

土日・祝日を含めた手厚いリハビリテーションを実施 患者さんのよりよい活動を育む



「リハビリテーション科の動画はこちら」

リハビリテーション科
ふじわら ひろやす 医師長 **藤原 啓恭** たかはし ひろき 理学療法士長 **高橋 博貴** たにがわ ゆうみ 副理学療法士長 **谷川 由実**

リハビリテーション科では、土日祝を含めてリハビリテーションを実施し、急性期に必要な集中したリハビリを提供しています。また新人教育プログラムや勉強会を通じて、急性期基幹病院として必要な心構えを共有し、日々、技術の向上に努めています。

術前評価や個々に応じた装具もとても重要

高橋 おおよそリハビリ処方の半分を占める脊椎疾患、股関節・膝関節疾患の患者さんやリウマチの患者さんに対して、手術前の評価をし、それにより術後のリハビリのプログラムを組んでいます。このうち手の外科手術の場合は、患者さんの筋力や変形、動きを確認しながら、担当医師と相談の上、作業療法士が個々に合うものを作っているのが特徴です。

その他の疾患でいえば、最近のがんや内臓疾患において術前評価のオーダーが増えています。手術前の体力を把握してリハビリに生かし、また合併症のリスクを軽減するため術後の息や咳のし方などを事前に患者さんへアドバイスできることは、大変有意義だと思います。

地域連携パスを運用中

藤原 大腿骨頸部骨折、脳卒中に関して地域連携パスを実施しており、回復期病院や療養型病院へ転院が必要となったとき、医師・看護師・リハビリスタッフなどが情報や診療計画を転院先にスムーズに引き継ぐ体制を整え、病院同士で勉強会なども行っています。超高齢社会において増加傾向にある脊椎圧迫骨折についても同様のパスを作成できないか、地域の需要に応じた当院独自のモデル作成に向けて試行錯誤中です。

私たちの使命は、急性期に必要なリハビリを個別的に手厚く行うことで退院後の生活にうまくつなげることであり、このことを通して地域に貢献したいと考えています。

集団での心臓リハビリテーション

谷川 今年2月から、感染予防対策を徹底した上で、集団での心臓リハビリを始めました。もちろん個別にしっかりとリスク管理のもと運動をしていただくのですが、集団で運動を行うことにより意欲が増し、患者さん同士やスタッフとの情報・意見交換を通して学びの場とすることで、同時に心疾患に対する理解を深め、再入院率を低下させることを目的としています。

